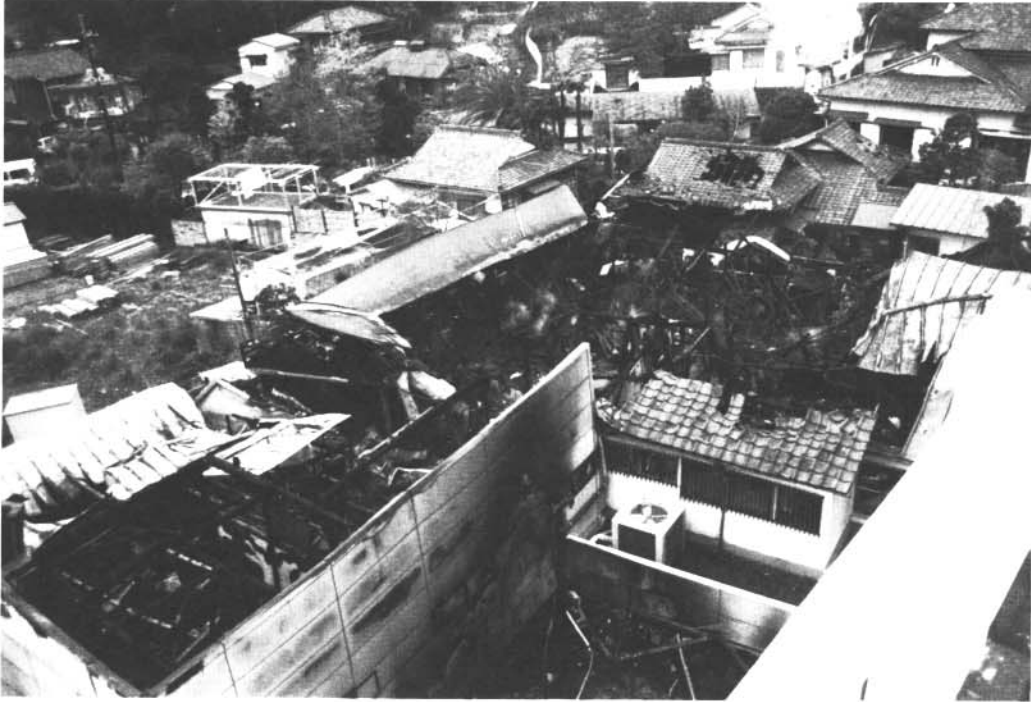


静岡県河津町 菊水館



1. 火災の特色

昭和2年に建てられ、増改築が繰り返し行われた旅館の木造部分から出火したものである。木造部分が全焼し、宿泊者3名が焼死した他、接続した新館にも煙が流入し、56名が負傷する惨事となった。本火災は、死者24名を出した「大東館」火災の約2ヶ月後に発生した火災で、夜間の警備体制が手薄であったため避難誘導がなされず、宿泊施設の夜間の防火管理体制の充実策について問われた。

2. 出火日時等

(1) 出火日時

昭和61年4月21日(月)2時04分頃

(2) 覚知時間(覚知方法)

昭和61年4月21日(月)2時19分(119番通報)

(3) 鎮火時間

昭和61年4月21日(月)4時15分

3. 火元の概要

(1) 所在地

静岡県賀茂郡河津町峰439-1

(2) 火元建物等の名称

(株)菊水館

(3) 火元建物の構造等

① 建築年月日

本館 昭和2年12月

② 増改築の状況

本館は数回にわたって改修され、新館は昭和46年に新築され接続された。

③ 建物用途

旅館（5項イ）

④ 構造

本館 木造2階建

新館 鉄筋コンクリート造4階建（耐火構造）

⑤ 面積

(ア) 本館

建築面積：687.94㎡

延べ面積：1,103.76㎡

(イ) 新館

建築面積：339.55㎡

延べ面積：1,429.60㎡

(ウ) 総延べ面積：2,533.36㎡

⑥ 出火時の在館者等

ア 従業員：昼間は賄婦等28名程度いたが、夜間の警備体制は警備員1名のみであった。

イ 宿泊者：117名

⑦ 建築物階層別用途

階	本館	新館
4		客室
3		客室
2	客室	宴会場
1	ゲーム、ラウンジ	ロビー
B1	地下道	

(4) 消防用設備等の設置状況

① 消火設備

消火器、屋内消火栓設備

② 警報設備

自動火災報知設備、非常放送設備、漏電火災警報設備

③ 避難設備

誘導灯

④ その他

地下道にドレンチャー設備が設置されていた。

(5) 防火管理の状況

① 防火管理者

昭和61年3月20日選任

② 消防計画

昭和55年2月14日届出

③ 避難訓練の実施状況

昭和60年9月1日、昭和61年2月14日に実施

(6) 適マークの交付状況

交付：昭和57年10月1日（昭和61年4月24日返還）

4. 気象状況

(1) 天候

曇り

(2) 風位、風速

風位：南東、風速：2.0m/s

(3) 気温、湿度

気温：14.0℃、湿度：80.0%

(4) 気象注意報等

なし

5. 出火原因

発火源、経過、着火物

出火したのは1階のトロピカルラウンジ付近であると判明しているが、出火原因等は不明である。

6. 損害状況

(1) 人的被害状況

① 死者

3名（男56才、女57才、男16才）

② 負傷者

56名（宿泊客55名、従業員1名）

(2) 物的損害状況

① 火元建物

ア 焼損程度 半焼

イ 焼損面積 1,098,59㎡（本館木造部分）

ウ 損害額 106,695千円

② 類焼建物

ア 棟数 1棟

イ 焼損程度 部分焼（玉峰館木造一部鉄骨造 2 階建）

ウ 焼損面積 1,709.26㎡のうち66㎡

エ 損害額 339,3千円

7. 火災の経過（火災の様態）

(1) 出火場所の状況

出火場所と思われるラウンジは、本館 1 階ロビーのゲームコーナー南側に位置し、スナックのカウンター内にはガスコンロ 1 台が設けられている。午後 10 時に閉店して 2 名の女性店員が火元の確認をしている。午前 1 時ごろ警備員が巡回しているが、その時は異常を認めていない。

(2) 出火に至るまでの状況

不明

(3) 火災発見の経緯

警備員の A は午前 2 時 10 分頃新館 1 階の事務室で自動火災報知設備のベルを聞いたが、誤作動と思いベルを停止した。しかし、表示灯が点灯したままであったので専務 B の自宅に電話した。

(4) 消防機関への通報状況

本館から 80 m 離れた自宅に就寝中の専務 B は警備員 A からの電話で火災である旨の連絡を受け、本館ロビーに駆け付け売店手前で炎が上がっていることを確認し 119 番通報をした。

(5) 初期消火の状況

初期消火は行われていない。

(6) 火災拡大の状況

昭和 2 年の老朽木造建築物であったことと火災発見・通報が遅く、初期消火が全く行われていなかったために、一挙に 2 階に延焼拡大したものと推定される。

(7) 避難の状況

火災である旨の一斉放送は行われなかったが、宿泊客は各人火災に気づいて避難を開始した。宿泊場所と避難の方法は次の通りである。

性別・年齢	宿泊場所	脱出方法	負傷程度
男31才	本館 2 階	渡り廊下で新館	なし
男39才	本館 2 階	窓から温室の屋根へ	右足切傷
男36才	本館 2 階	窓から給水塔へ	軽傷
女35才	新館 3 階	渡り廊下で新館へ	軽傷
女70才	新館 3 階	タオル口に当てて	煙を吸う
女80才	新館 3 階	添乗員に背負われて	煙を吸う
女62才	新館 3 階	窓からはしごで	煙を吸う
女71才	新館 3 階	階段をはうように	煙を吸う
女68才	新館 3 階	男性に抱かれて	煙を吸う
女73才	新館 3 階	階段づたいに	背骨骨折

性別・年齢	宿泊場所	脱出方法	負傷程度
女73才	新館 3 階	布団を口に当てて	顔やけど
女63才	新館 3 階	服を口に当てて	なし
男85才	新館 3 階	階段づたいに	入院
女65才	新館 3 階	階段づたいに	煙を吸う
男51才	新館 4 階	シーツつなぎ窓から	軽傷
男53才	新館 4 階	シーツつなぎ窓から	右足骨折
男39才	新館 4 階	シーツつなぎ窓から	軽傷
男48才	新館 4 階	シーツつなぎ窓から	なし
男25才	新館 4 階	シーツつなぎ窓から	手足切傷
男25才	新館 4 階	非常口からはしごで	煙を吸う

(8) 自衛消防隊の活動状況

初期消火、避難誘導は行われていない。本館が火炎に包まれた頃に社員寮に就寝していた社員7名が駆け付け、宿泊客の避難誘導にあたった。

(9) 死者の状況

火点の真上の「松の間」に宿泊していた3名は深夜であり、飲酒による就寝中であったことに加え、火煙の回りが相当早かったため、避難が間に合わず死亡したと推定される。

8. 消防機関の活動状況

(1) 出動隊等

① 出動車両

常備 8台、非常備 18台

② 出動人員

常備 38名、非常備 345名

(2) 消防機関の消火、救助活動の状況

先着隊の到着時は本館1階は海側より炎が吹きだし、新館3・4階の窓から煙に追われて避難できない宿泊客が助けを求めている状態であった。消防隊は消防活動と共に救助活動を優先し、二連はしごを架梯し、逃げ遅れた者の発見と救出に全力をあげた。

9. 問題点・教訓

(1) 当日の夜間の防火管理体制が1名の警備員のみであったこと。自動火災報知設備への地区ベルは切ってあったが、その他は正常に機能し、早い時期に火災を感知できたにもかかわらず、消防隊への通報等が適切にできなかった。

(2) 警備員は火災を知った後、各部屋に火災である事を伝達して回ったということであるが、各室へ確実に伝達できなかったため、3人の焼死者を出す結果となった。

(3) 屋内消火栓設備があったにもかかわらず、全く初期消火がされなかった。

(4) 本館と新館との間に設けられた防火戸、新館の階段室等に設けられた防火戸がほとんど閉鎖しなかったため煙が急速に拡散した。

(5) 各部屋からの避難経路を絶たれ、シーツを結んで避難をした宿泊客がかなりいた。一時的避難場所とそこから確実に地上へ避難できるように図られていれば負傷者は減らすことができた。

10. 資料

図一1：付近見取り図

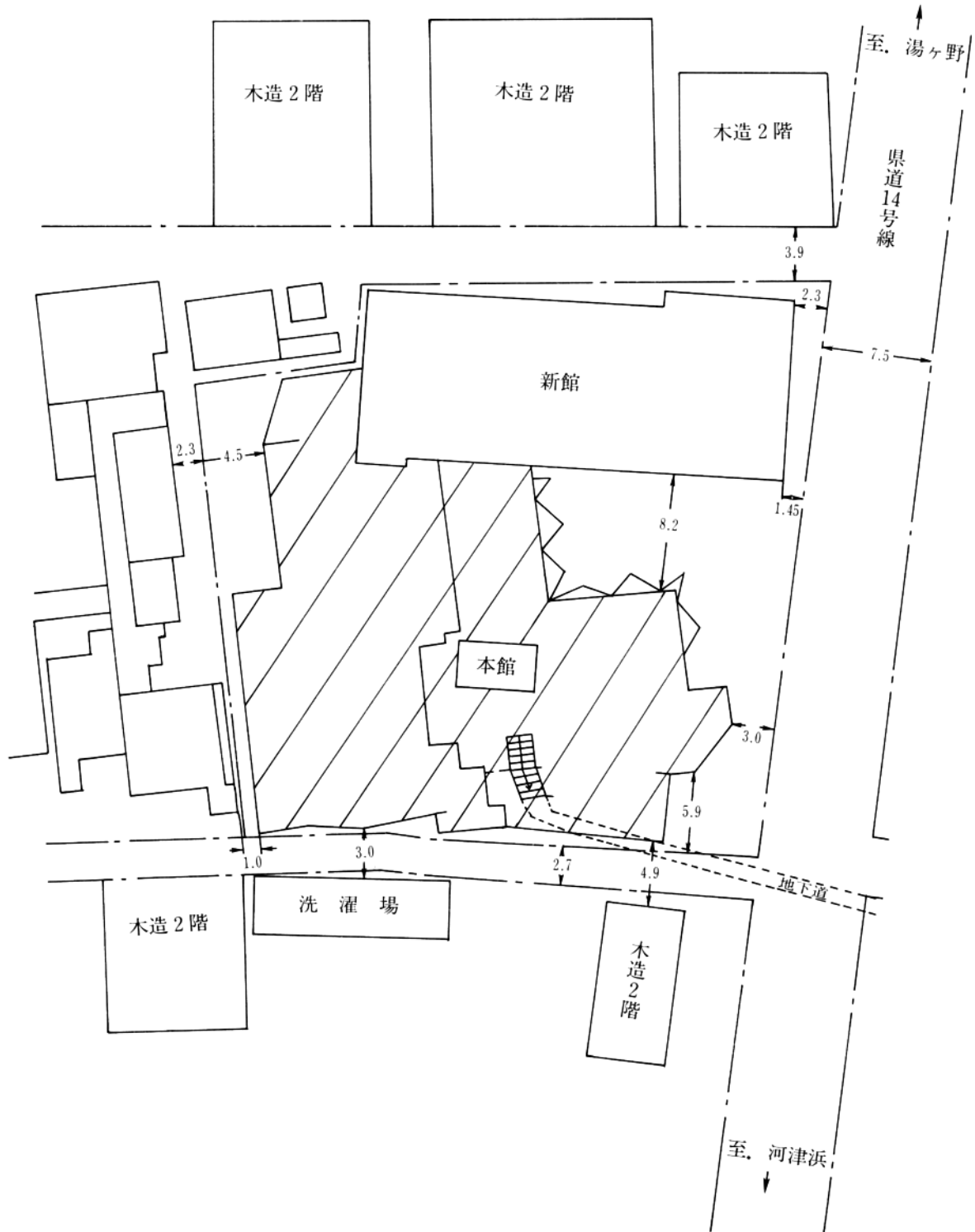


図-2：1階平面図（新館・本館）

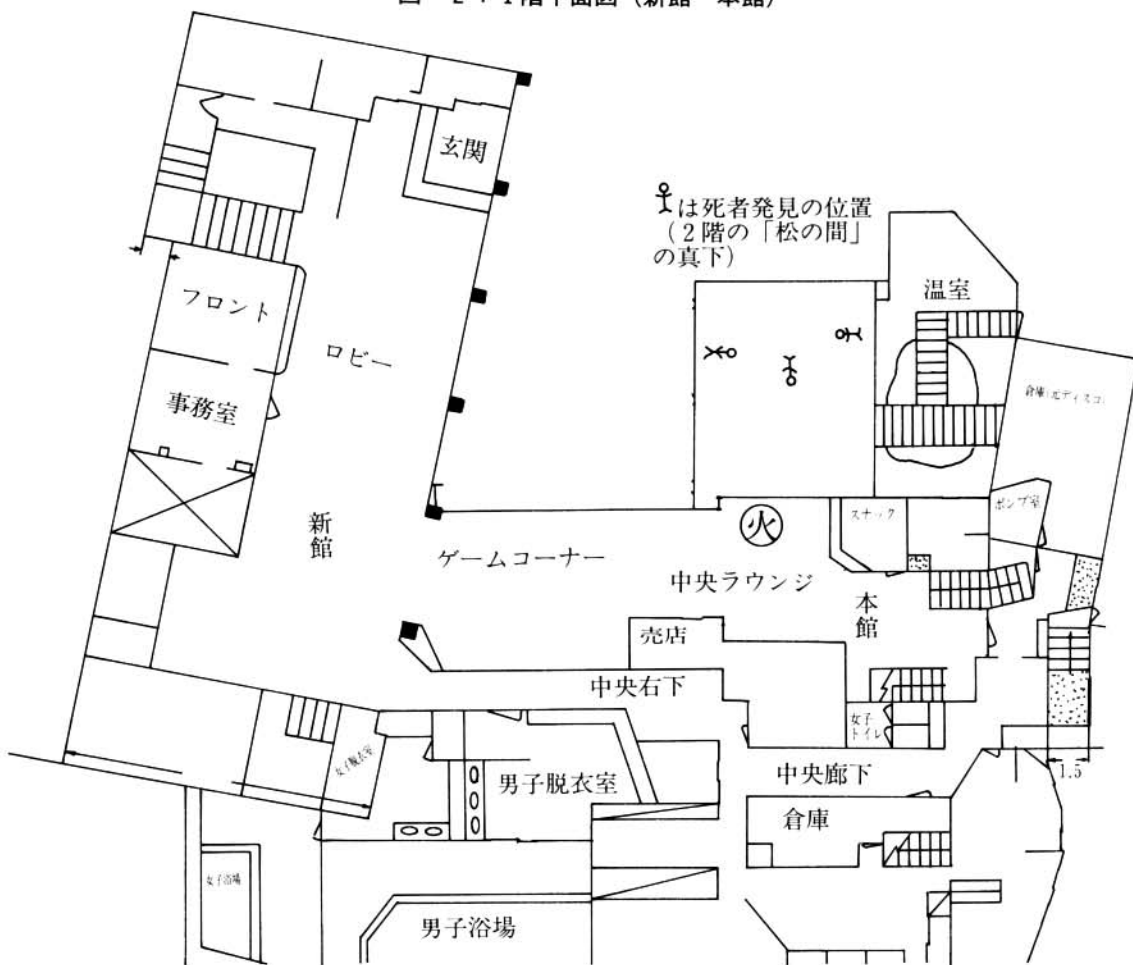


図-3：2階平面図

